

戦評

大会名 平成26年度第67回青森県高等学校総合体育大会バレーボール競技

日時 平成26年6月7日～9日

会場 八戸東体育館ほか

男子決勝（6月9日）

弘前工業高等学校 2 $\left\{ \begin{array}{l} 25-22 \\ 25-16 \end{array} \right\}$ 0 五所川原工業高等学校

ファーストレフリース

津嶋由香

セカンドレフリース

岡村尚文

決勝は3年連続8回目の優勝を目指す五所川原工業高校（以下五工）と3年ぶり36回目の優勝を目指す弘前工業高校（以下弘工）の5年連続同カードの対戦となった。

第1セット序盤、弘工は春藤の時間差攻撃、キャプテン佐藤の高さのある足の長いスパイクなどで得点を重ね5-1と好スタートを切る。対する五工は、井上のクイックを中心にゲーム組み立て、ペースを掴もうとする。弘工リードの7-5、五工井上のサービスエースで1点差としたが、弘工の時間差攻撃が決まり再びペースを握られる。その後はキャプテン佐藤のバックアタック、春藤のテンポの速いレフト攻撃やライトに回り込んでの攻撃で11-7とし、五工は1回目のタイムアウトをとる。タイム後、五工は工藤の思い切りの良いバックアタックや井上のライト攻撃で打開しようと試みるが弘工佐藤のサーブが続き、18-13と離されてしまう。五工は2回目のタイムアウトをとり、流れを変えようと試みる。タイム後、先に20点を奪ったのは弘工であったが、サーブとスパイクの3連続ミスで20-17となり1回目のタイムアウトをとる。弘工リードの23-22、弘工は佐藤にボールを集め、得点する。弘工リードの24-22、弘工は石戸をピンチサーバーとして送り出し、サーブで崩すと、小笠原の一人時間差で1セット目を奪取する。

第2セット序盤、弘工は佐藤や小松崎にボールを集めサイドから攻撃を展開し、6-3とリードする。その後は弘工小笠原のAクイックでリズムを掴むと、春藤のテンポの早いレフト平行で4点差とする。対する五工は対馬のBクイックが決まりだす。しかし、10-5とリードされ、五工は1回目のタイムアウトをとる。タイム後、弘工は春藤の時間差攻撃でさらに加点し、五工は天間のクイックで打開しようと試みる。15-7、五工は天間のAクイックが決まり、流れを引き寄せようとするが、弘工佐藤のサービスエースで18-8とされると、五工は2回目のタイムアウトを取る。19-9、五工は安田をピンチサーバーとして投入するが、崩せず、時間差攻撃をされてしまう。さらに五工は弘工春藤のレフト攻撃に3枚ブロックで対応するが、吸い込んでしまい得点される。24-16、弘工佐藤がレフトからブロックを貫通するスパイクを放ち、3年ぶり36回目の優勝を決めた。弘工佐藤は弘工全得点50点のうち19点を、春藤は11点をあげる活躍を見せた。

戦評者 本間貴士